


株主のみなさまへ

# 第155期 中間報告書

平成21年4月1日から平成21年9月30日まで



化学でもっといいこと。

 **ダイソー株式会社**

証券コード 4046 <http://www.daiso.co.jp/>

## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所および大阪証券取引所
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL <a href="http://www.daiso.co.jp/">http://www.daiso.co.jp/</a> (ただし、やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合、 日本経済新聞に掲載する方法により行います。)

### (ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

### 単元未満株式をお持ちの株主さまへ

当社は、1単元(1,000株)に満たない当社株式を所有されている株主さまの便宜をはかるため、「単元未満株式の買増・買取制度」を実施しております。お手続きなどの詳細に関しましては、証券会社にて株式を管理されている場合はお取引先の証券会社に、特別口座にて株式を管理されている場合は、三菱UFJ信託銀行にお問合せください。

当社グループをより知っていただくために、インターネットのホームページもご活用ください。

- 最新の情報はこちらをご覧ください。  
ホームページアドレス <http://www.daiso.co.jp/>



トップページ



## 株主のみなさまへ

株主のみなさまには、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は、格別のご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社グループは、第155期中間期(平成21年4月1日から平成21年9月30日まで)の決算を行いましたので、ここに事業の概況についてご報告申し上げます。

平成21年12月

代表取締役社長 佐藤 存

## 事業の経過およびその成果

当中間期におけるわが国経済は、企業の在庫調整が一巡するとともに、新興国需要や政府の景気対策により実体経済に底打ちの兆しが見え始めました。しかしながら、生産活動の低迷による設備投資の減少、雇用・所得環境の悪化による個人消費の冷え込み、さらには円高による輸出への影響など、厳しい経済環境で推移いたしました。

このような状況下で、当社グループは、中期経営計画『GLOBAL GROWTH-10』の2年目を迎え、中期的視野に立った安定的成長への基盤強化を行うとともに、BRICsなどの新興国を中心とした海外展開やグループの効率的経営の推進等に注力してまいりました。本年7月には、当社グループの医薬中間体事業における生産・販売・研究開発のより一層の相乗効果を図るため、当社の医薬中間体事業を子会社のサンヨーファイン株式会社に統合いたしました。

また、急激な経営環境の悪化に対処すべく、需要動向に即した生産体制、設備投資の厳選、徹底した経費の削減など、収益改善に積極的に取り組んでまいりました。その結果、当中間期の連結売上高は、344億2千7百万円と対前年同期比18.3%減少いたしました。利益面においては、生産効率の向上や経費の削減など徹底したコストダウンに取り組みましたが、販売数量の大幅な減少により、連結営業利益は、9億1百万円と対前年同期比59.6%

の減少、連結経常利益は、9億7千9百万円と対前年同期比56.9%の減少、連結純利益は、4億3千7百万円と対前年同期比59.5%の減少となりました。

## 通期の見通し

当社グループを取り巻く環境は、一部市場では明るさが見えてきましたものの、世界的規模での景気後退により、依然として厳しい状況が続くと予想されます。

このような状況のもと、当社グループは中期経営計画を達成するため、引き続き徹底したコストダウンを実施し、事業環境の変化に即応できる体制構築を推進する一方、海外展開の基盤拡大に向け販売体制を強化するなど、通期目標達成に総力を挙げて取り組んでまいります。

中間配当金につきましては、前期同様の1株当たり3円とさせていただきます。期末配当金につきましても、1株当たり3円を予定しておりますので、1株当たりの年間配当金は前年度と同額の6円とさせていただきます予定です。

当社グループは、日々の事業活動において企業の社会的責任を果たすべく、内部統制システムの強化、コンプライアンス体制の一層の充実を図り、社会に信頼される企業グループを目指してまいります。

環境・安全と製品の品質確保につきましても、レスポンス・ケア活動とISO活動を中心に万全を期すとともに、環境負荷低減のために省資源・省エネルギー活動に積極的に取り組み、地球環境と調和した企業の発展を図ってまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 企業理念

1. 私たちは化学を中心とする事業を通じてより豊かな社会の実現に貢献します
2. 私たちは世界に信頼される技術と製品を創造します
3. 私たちは情熱と誠意をもって行動します

基礎化学品

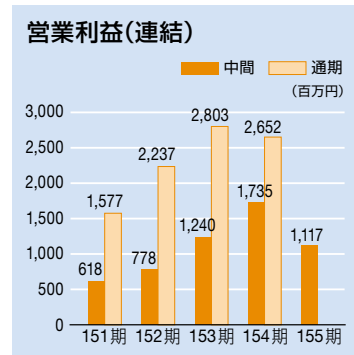
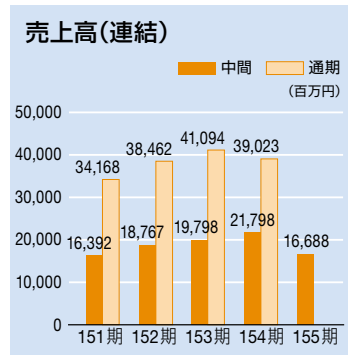
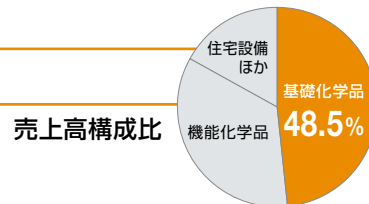
売上高：166億8千8百万円

かせいソーダは、紙・パルプ業界などの需要減により販売数量は減少しましたが、前期に実施した価格改定により売上高は微減に留まりました。

無機塩化物は、販売数量面では、すべての製品で減少しましたが、原燃料価格の上昇に対応した価格改定により、次亜塩素酸ソーダ、亜塩素酸ソーダの売上高は増加しました。

エピクロルヒドリンは、主力需要先であるエポキシ樹脂ユーザーの需要減少の影響を受け、売上高は減少しました。

以上の結果、基礎化学品の売上高は、166億8千8百万円と前年同期比23.4%の減少となりました。



住宅設備ほか

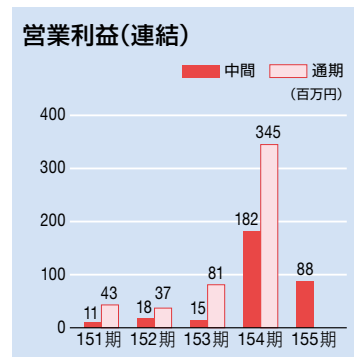
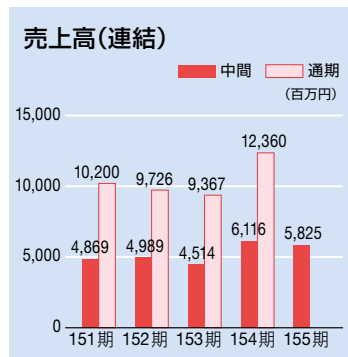
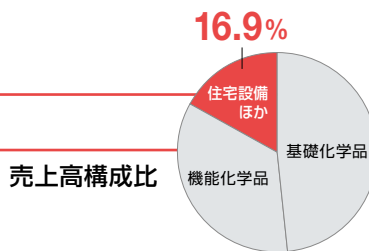
売上高：58億2千5百万円

化粧板などのダップ加工材は、建築不況の影響により売上高は減少しました。

生活関連商品は、好調に推移しましたので、売上高は増加しました。

エンジニアリング部門は、国内企業の設備投資減少の影響を受け、売上高は減少いたしました。

以上の結果、住宅設備その他の売上高は、58億2千5百万円と前年同期比4.8%の減少となりました。



機能化学品

売上高：119億1千3百万円

アリルエーテル類は、需要減少と円高が影響し、売上高は減少しました。

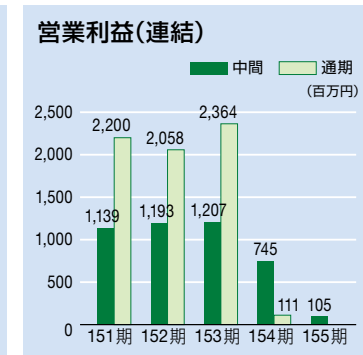
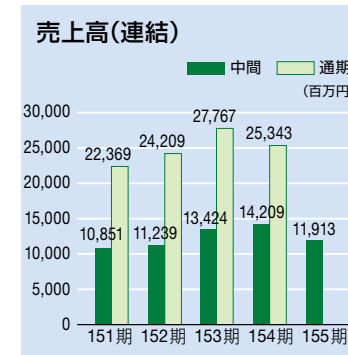
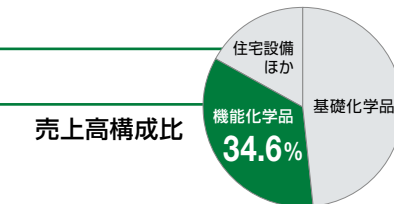
エピクロルヒドリンゴムは、自動車用途向けは中国・韓国市場で好調に推移したものの、国内および欧米での需要減により販売数量は減少しました。OA機器用途向けも需要家での生産回復が遅れ、販売数量は減少しました。

省エネタイヤ用改質剤は、自動車生産台数の減少により、売上高は減少しました。

ダップ樹脂は、中国向け輸出は好調でしたが、国内需要が振るわず、販売数量は微減となりました。

ダップモノマーは、中国での販売数量が大幅に増加しましたが、欧米での販売数量が落ち込んだため、売上高は減少しました。

液体クロマトグラフィー用シリカゲルは、分析用シリカゲルでは世界的な消費低迷の影響を受けましたが、医薬品精製用シリカゲルは欧州での需要減を中国、インド、米国での販売数量増でカバーし、売上高は増加しました。



医薬品原体・中間体は、サンヨーファイン株式会社との事業統合による生産・販売・研究開発における相乗効果により、売上高は増加しました。

酸化イリジウム電極は、自動車・家電業界、ソーダ業界などの大幅減産、設備投資減少の影響を受けたため、売上高は減少しました。

以上の結果、機能化学品の売上高は、119億1千3百万円と前年同期比16.2%の減少となりました。

ダイソーグループのセグメントと主な製品

- セグメント ●主要製品
- 基礎化学品 かせいソーダ、塩酸、液化塩素、塩素ガス、次亜塩素酸ソーダ、亜塩素酸ソーダ、塩素酸ソーダ、かせいカリ、水素ガス、エピクロルヒドリン、アリルクロライド、ジクロロプロペン、塗料原料、接着剤原料 など
- 機能化学品 アリルエーテル類、エピクロルヒドリンゴム、ダップ樹脂、省エネタイヤ用改質剤、液体クロマトグラフィー用シリカゲル、光学活性体、医薬品原体・中間体、酸化イリジウム電極、レンズ材料、感光性樹脂 など
- 住宅設備ほか ダップ加工材、住宅関連製品、健康食品、化学薬品の輸送・貯蔵、化学プラント・環境保全設備建設、蛍光管のリサイクル など

## 研究開発の新たな取り組み

### マーケットイン型研究開発体制へ

当社の研究開発は、短期テーマの「既存事業の強化」と中長期テーマの「エネルギー・環境、電子材料、ライフサイエンス」の3分野に集中投資しています。

短期テーマの「既存事業の強化」では、基礎化学品および機能化学品の製品ラインアップ強化を図ります。

主幹製品であるアリルクロライド製造の際に得られる多様な化合物を利用した新製品の開発テーマに注力しています。また、エピクロルヒドリンゴムの製品ラインアップ強化など、顧客ニーズに基づいた研究開発にも取り組んでいます。

中長期テーマのエネルギー・環境分野では、当社の有機固体電解質を用いた全固体型リチウム二次電池素材の開発を推進しています。電子材料分野では、次世代EL素子の原料や特殊封止剤の開発を開始しました。ライフサイエンス分野では、産学協同を機軸として、β-グルカンの医療関連用途への展開を推進しています。

今後、研究開発においては、ターゲットとする業界の市場標準を形成する製品を産出すべく、開発スピードを上げ、早期上市を目指してまいります。



研究所

#### 短期テーマ

##### ● 既存事業の強化

- ・アリルクロライド関連製品の開発
- ・エピクロルヒドリンゴムの製品ラインアップ強化 (OA機器グレードなど)
- ・電解電極の改善

ほか

#### 中長期テーマ

##### ● エネルギー・環境

- ・全固体型リチウム二次電池素材の開発

##### ● 電子材料

- ・次世代EL素子原料の開発
- ・特殊封止剤の開発

##### ● ライフサイエンス

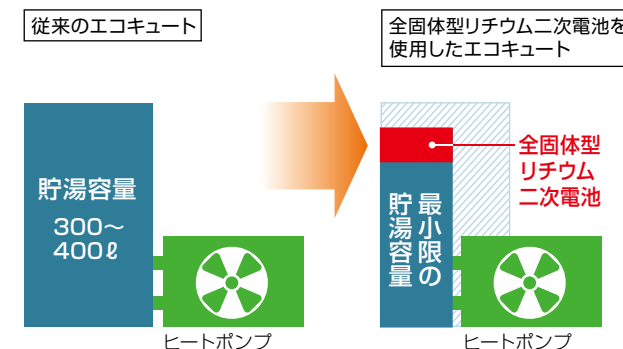
- ・β-グルカンの医療関連用途への展開

### エコキュート用全固体型リチウム二次電池素材の開発

エコキュートは安価な深夜電力を利用した給湯システムですが、夜間に一日分のお湯を貯える大きな湯槽が必要です。高性能な電池に一晚分の電力を蓄めて必要な時にお湯を沸かすことができれば経済的ですが、通常のリチウム二次電池は熱や水に弱く、湯槽から離す必要があり、多くのスペースを必要とします。

当社の有機固体電解質を用いた全固体型リチウム二次電池は、熱や水に強く、湯槽との一体化が可能で、小型化が実現できると期待されています。深夜電力の有効利用は、エネルギーの供給平準化を促し、CO<sub>2</sub>排出量削減にも貢献できます。

現在、財団法人 電力中央研究所と共同で推進しているエコキュート用全固体型リチウム二次電池の開発は、エネルギー・環境の両面から、皆様の生活を支える新技術であり、当社が最も注力している技術の一つです。



### β-グルカン協議会設立

「β-グルカン」は、一般に「免疫機能の向上」「アレルギーの低減」「便通改善作用」「自律神経への働き」「食後血糖値上昇の抑制」など、数多くの効能が期待される機能性食品です。DSウェルフーズ(株)では、黒酵母由来のβ-グルカン「アクアβ」を製造販売していますが、一般消費者への浸透が充分ではありませんでした。

β-グルカンの正しい知識の普及のためDSウェルフーズ(株)を含む主要生産メーカー5社により本年10月にβ-グルカン協議会が設立されました。今秋、東京ビッグサイトで開催された「食品開発展」での協議会主催によるβ-グルカンシンポジウムは活況を呈し、潜在需要の高さを示しました。

協会の取り組みは始動したばかりですが、今後の市場拡大に期待を寄せています。



DSウェルフーズ

検索

## ダイソー物語 ③

1968～1976<昭和43年～昭和51年>

1915年の創業以来、わが国の食塩電解ソーダ工業のパイオニアとして、革新的な技術で成長し続けてきたダイソー。2015年に100周年を迎えるにあたって、株主のみなさまに当社へのご理解をさらに深めていただきたく、創業から現在までを振り返る「ダイソー物語」を、全6話にわたりお届けしています。

第3話となる今回は、新たな事業を積極的に展開し、機能化学品への基盤を着々と確立していった歴史を振り返ります。

### スリーチャレンジ方針を発表

昭和44(1969)年1月、当時の社長である三好軍次が「向う3年間で3倍の規模へ」を合い言葉に「スリーチャレンジ方針」を発表。全社員が一致団結して、さらなる業績向上に向けて邁進しました。

#### スリーチャレンジ方針

- ①新鋭の電解工場をもつ
- ②水島コンビナート内に年間2万トンのアリルクロライドのプラントを持ち、さらに米国UCC社から技術を導入し、エピクロルヒドリン1万6千トンのプラントを稼働させる。
- ③塩素化ポリエチレンの拡販を行う。



「スリーチャレンジ」を掲げたイラスト(昭和44年)

### 初の外国技術の導入

当社の塩素酸ソーダは、昭和36(1961)年の製造開始以来「化学法」で作られていましたが、後の需要増加に対応するため、カナダケメック社の複極式電解法の塩素酸ソーダ製造技術を導

入。昭和44(1969)年1月、尼崎工場で電解クロレート製造装置の竣工式が行なわれました。

当社としては初の外国技術の導入で、その後の収益向上に大きく寄与しました。



塩素酸ソーダ電槽技術導入調印の様子

### 岡山化成(株)・大曹有機(株)を設立し、水島コンビナートへ進出

水島コンビナートは、岡山県水島地区において、ナフサ(粗製ガソリン)を出発原料とし、これを分解して得られるエチレン、プロピレンなどの留分から多種多様な製品を生産する工業地帯です。

当社は、この水島コンビナートに、無機(岡山化成(株))と有機(大曹有機(株))の二本柱をもって参加し、化学工業の限りない未来への挑戦を始めました。

昭和43年(1968)年12月、当社と旭化成工業(株)(現在の旭化成ケミカルズ(株))との合併により、岡山化成(株)を創設。塩ビモノマーやアリルクロライド、エピクロルヒドリン等の原料である塩素のコンビナート関連工場への供給を開始しました。また、エピクロルヒドリンの工業的重要性を予知した当社は、昭和45(1970)年4月に、大曹有機(株)を設立しました。

当時のエポキシ樹脂業界は、シェル化学・ダウケミカル・チバガイギーの3社が世界市場をおさえていましたが、当社の高品質なエピクロルヒドリン製造開発により、国内のエポキシ樹脂メーカーが育成され、塗料・電気・接着剤等の分野で安定的な供給が行われるようになり、これが土木建設業や自動車産業等の国際競争力の向上に大きく寄与しました。



水島コンビナート(昭和44年当時)

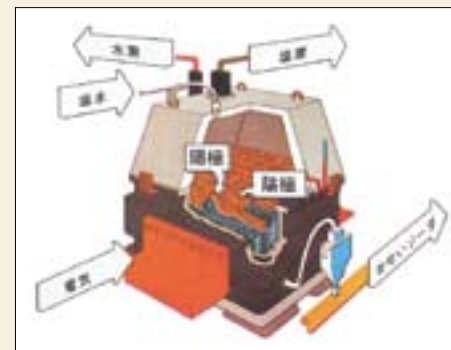
### かせいソーダ製法転換 —水銀法から隔膜法へ—

低級脂肪族の有機水銀による公害問題が発生したことを受け、通産省(現在の経済産業省)は、有機水銀だけでなく、無機水銀の使用をも禁止しました。昭和48(1973)年11月、無機水銀を使用していたソーダ工業界に対して「国内の電解法かせいソーダ設備の95%を占める水銀法を、第一次、第二次に分けて隔膜法に転換すること。また、その転換までの期間は水銀クロード化を徹底すること」を要請しました。

これらの要請を受け、尼崎工場のフッカー式電解槽、松山工場のダイヤモンド・シャムロック式電解槽で、昭和51(1976)年3月末までに隔膜法への転換を完了しました。



隔膜法の電解槽(尼崎工場 昭和51年)



フッカー式電解槽

### ダイソーエンジニアリング(株)の設立

当社は、大正4(1915)年の創立以来、数多くの優秀な技術を開発・確立してきました。「ダイソーの技術」を使用した設備の設計・施工から技術指導まで幅広くカバーするエンジニアリング専門会社として、昭和50(1975)年4月、ダイソーエンジニアリング(株)を設立しました。



ダイソーエンジニアリング(当時の本社ビル)

### 大阪曹達(株)設立から1976年までの歩み

- 1915年 大阪曹達(株)設立
- 1916年 小倉工場建設
- 1931年 尼崎工場建設
- 1952年 松山工場建設
- 1956年 大曹商事(株)設立
- 1961年 研究所開設  
尼崎工場塩素酸ソーダ製造プラント新設
- 1962年 松山工場にタック樹脂プラント新設
- 1968年 旭化成工業(株)(現在の旭化成ケミカルズ(株))との合併により岡山化成(株)設立
- 1969年 尼崎工場電解法塩素酸ソーダ製造プラント新設
- 1970年 大曹有機(株)設立
- 1971年 水島工場建設  
アリルクロライドおよびエピクロルヒドリン製造プラント新設
- 1973年 かせいソーダ製法転換を開始
- 1975年 ダイソーエンジニアリング(株)設立
- 1976年 かせいソーダ隔膜法への製法転換を完了

次回、第4話では、1977～1985<昭和52年～昭和60年>の歴史を振り返ります。

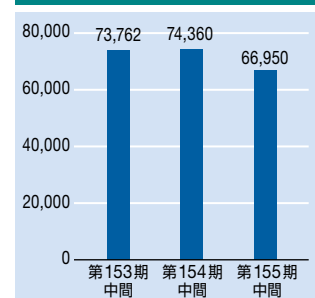
# 中間連結財務諸表

## 中間連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

科目	前中間連結会計期末 (平成20年9月30日現在)	当中間連結会計期末 (平成21年9月30日現在)	前連結会計年度の 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日現在)
<b>資産の部</b>			
流動資産	40,941	35,398	32,092
固定資産	33,419	31,551	31,633
有形固定資産	19,376	18,239	19,244
無形固定資産	1,087	882	970
投資その他の資産	12,954	12,429	11,418
資産合計	74,360	66,950	63,726
<b>負債の部</b>			
流動負債	25,381	21,324	18,188
固定負債	15,146	12,516	13,122
負債合計	40,527	33,840	31,311
<b>純資産の部</b>			
株主資本	32,584	32,016	31,913
評価・換算差額等	1,199	1,026	437
新株予約権	48	66	64
純資産合計	33,833	33,109	32,414
負債純資産合計	74,360	66,950	63,726

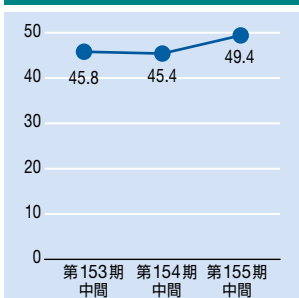
### 総資産 (単位:百万円)



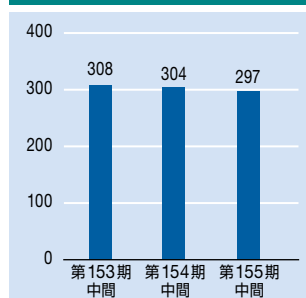
### 純資産 (単位:百万円)



### 自己資本比率 (単位:%)



### 1株当たり純資産 (単位:円)



## 中間連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	前中間連結会計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当中間連結会計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	前連結会計年度の 要約損益計算書 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)
売上高	42,124	34,427	76,726
売上原価	34,588	28,976	64,377
売上総利益	7,536	5,450	12,349
販売費及び一般管理費	5,306	4,549	10,164
営業利益	2,229	901	2,184
営業外収益	184	186	376
営業外費用	144	108	467
経常利益	2,269	979	2,093
特別利益	8	6	398
特別損失	398	221	1,221
税金等調整前中間(当期)純利益	1,879	763	1,270
法人税、住民税及び事業税	750	516	304
法人税等調整額	50	△189	220
中間(当期)純利益	1,078	437	745

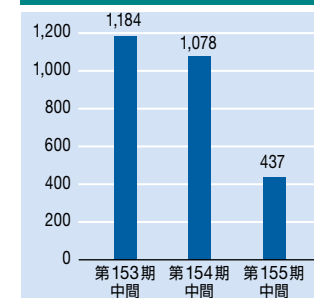
### 売上高 (単位:百万円)



### 経常利益 (単位:百万円)



### 中間純利益 (単位:百万円)



中間連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	前中間連結会計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	379	2,301	4,217
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,076	△1,156	△4,290
財務活動によるキャッシュ・フロー	510	△894	△787
現金及び現金同等物に係る換算差額	△9	△6	△229
現金及び現金同等物の増減額	△1,194	245	△1,089
現金及び現金同等物期首残高	5,527	4,437	5,527
現金及び現金同等物中間期末(期末)残高	4,332	4,682	4,437

中間連結株主資本等変動計算書 当中間連結会計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

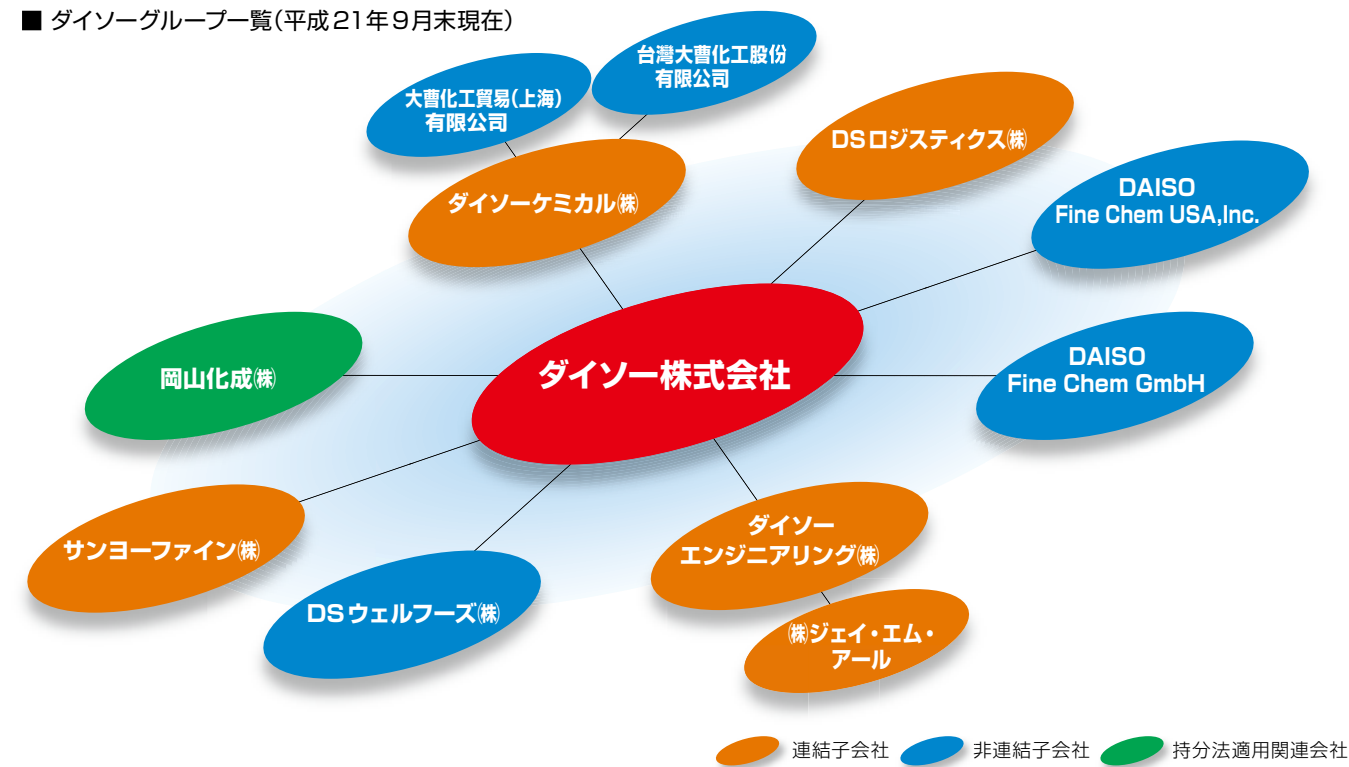
(単位:百万円)

項目	株主資本				株主資本 合計	評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ	評価・換算差額等 合計		
平成21年3月31日残高	10,882	9,394	11,838	△201	31,913	442	△5	437	64	32,414
中間連結会計期間中の変動額										
剰余金の配当			△332		△332					△332
中間純利益			437		437					437
自己株式の取得				△1	△1					△1
株主資本外の項目の中間連結 会計期間中の変動額(純額)						589	△0	589	2	591
中間連結会計期間中の変動額合計			104	△1	103	589	△0	589	2	694
平成21年9月30日残高	10,882	9,394	11,943	△202	32,016	1,032	△6	1,026	66	33,109

(注)中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結キャッシュ・フロー計算書、中間連結株主資本等変動計算書に記載の金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

当社グループは、子会社10社および関連会社1社により構成されています。  
国内外のネットワークを駆使して、事業の拡大に努めてまいります。

■ ダイソーグループ一覧(平成21年9月末現在)



国内

会社名	主要な事業内容
ダイソーケミカル(株)	化学工業薬品および機能化学品等の販売
ダイソーエンジニアリング(株)	各種化学プラントおよび環境保全設備の設計・施工・請負・技術指導、電極の製造販売
(株)ジェイ・エム・アール	使用済み蛍光管の再資源化およびリサイクル事業
DSロジスティクス(株)	物流事業
サンヨーファイン(株)	医薬品原体・中間体の製造販売
DSウェルフーズ(株)	健康食品の製造、加工販売
岡山化成(株)	塩素、かせいソーダ、水素および誘導品の製造

海外

会社名	主要な事業内容
大曹化工貿易(上海)有限公司	機能化学品・電子材料等の輸出入
台湾大曹化工股份有限公司	機能化学品・電子材料等の輸出入
DAISO Fine Chem USA, Inc.	シリカゲルの販売、カラムの製造販売
DAISO Fine Chem GmbH	シリカゲル、医薬品原体・中間体の販売

株式の状況

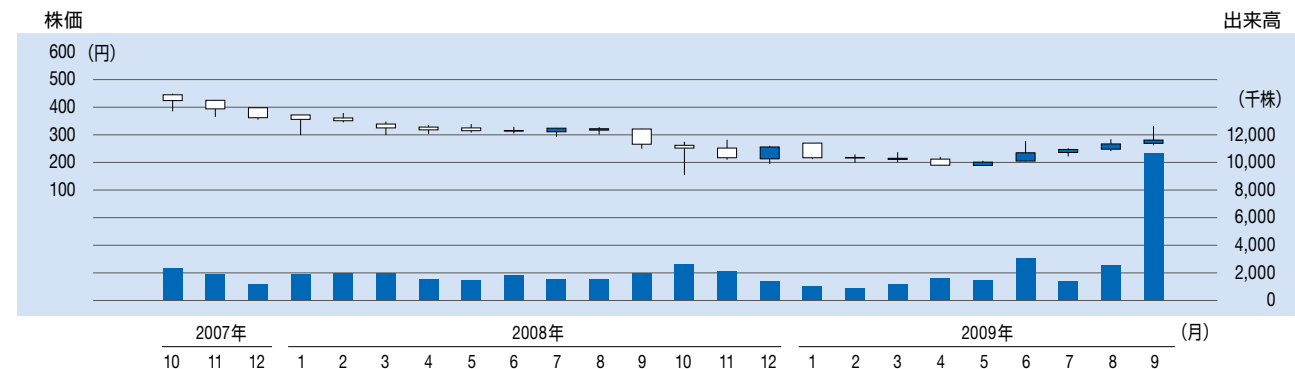
発行可能株式総数 ----- 300,000,000株  
 発行済株式総数 ----- 111,771,671株  
 株主数 ----- 8,688名

大株主一覧(上位10名)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
株式会社ワイエムシィ	6,393	5.76
帝人株式会社	5,893	5.31
日本興亜損害保険株式会社	4,692	4.23
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,684	4.22
株式会社みずほコーポレート銀行	4,348	3.92
株式会社池田銀行	4,240	3.82
株式会社福岡銀行	3,813	3.43
株式会社伊予銀行	3,744	3.37
日本生命保険相互会社	3,542	3.19
旭化成ケミカルズ株式会社	2,933	2.64

(注)出資比率は、発行済株式の総数から自己株式(852,852株)を控除して計算しております。

株価および出来高の推移



創 立 ----- 大正4年10月26日  
 資 本 金 ----- 108億8千2百万円  
 連結従業員数 ----- 751名

事業所

本社  
 〒550-0011 大阪市西区阿波座1丁目12番18号  
 ☎ (06) 6110-1560

東京支社  
 〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号  
 ☎ (03) 3537-8741

研究所  
 〒660-0842 尼崎市大高洲町9番地  
 ☎ (06) 6409-0791

小倉工場  
 〒803-0838 北九州市小倉北区高見台8番1号  
 ☎ (093) 561-6681

尼崎工場  
 〒660-0842 尼崎市大高洲町11番地  
 ☎ (06) 6409-1581

松山工場  
 〒791-8525 松山市北吉田町77番地  
 ☎ (089) 972-0131

水島工場  
 〒711-0934 倉敷市児島塩生字新浜2767番13号  
 ☎ (086) 475-0331

静岡工場  
 〒439-0031 菊川市加茂1110番11  
 ☎ (0537) 36-6781

デュッセルドルフ事務所  
 ドイツ連邦共和国デュッセルドルフ市インマーマン通り13  
 ☎ 49-211-353146

上海事務所  
 中華人民共和国上海市長寧区遵義路100号  
 (虹橋上海城)  
 ☎ 86-21-6237-1651

取締役および監査役

代表取締役社長	佐藤 存
専務取締役	橋本 明
常務取締役	山下 光一
常務取締役	上出 修
常務取締役	柴野 美知朗
取締役	竹尾 恒行
取締役	酒井 貴明
取締役	古川 喜朗
取締役	渡邊 秀明
取締役	門間 政明
取締役	岩堀 政樹
取締役	阿部 哲生
取締役	辻田 正胤
取締役	内堀 貴弘
常勤監査役	浅岡 憲之
常勤監査役	瀬川 恭史
社外監査役	中務 嗣治郎
社外監査役	鳥家 秀夫